

2018年
3月号
NO.0067

カトリック笹丘教会
教会 ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標…「神のいつくしみをさらに生き、広めよう！」

私たちの信仰生活の初心



主任司祭 遠山満

求道者の方々と共に四旬節を過ごしながら分かってきたことは、求道者の方々が受洗後の生活に対して様々な不安を抱いておられるということです。洗礼を受けた後、「毎週ミサに行けるだろうか」とか、「教会行事に参加できるだろうか」とか、「教会の掟を生きることができるだろうか」等々です。私は、この方達の心情に耳を傾けながら、初々しさを感じています。また私は、自分の洗礼の時、これほど真剣に考えただろうか、反省させられることも多々あります。と同時に、信仰生活に関して、真剣に考えたことがあった時のことも思い出しました。私の場合それは、修道誓願を宣立する時でした。

イエス様は、「あなた方も聞いている通り、昔の人は、『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』と命じられている。しかし、私は言うておく。一切誓ってはならない」(マタイ5・33~34)と仰っています。それにも拘わらず、修道誓願を立てる者は、生涯、自分の私有財産を持たないこと、独身で清い心を保って生きる事、自らの好みによらず、修道会の必要に応じて使徒職を果たしていくことを誓うのです。

それでは、何故、このような誓いを立てることが教会の中で赦されているのでしょうか。それは、修道誓願の根底に、「このような生活を送らせて下さい」という、誓願を立てる者の側の願望があるからです。その願望を前提として誓願を立てる人は誓うのです。

この点で、修道誓願は、政治の世界や一般社会の宣誓とは異なります。そこでは、真実が露見しなければ問題なく、多少誓ったことと異なることを行っても、任期まで務めることができます。しかし私達は、心の奥までお見通しの神様に向かって、生涯に亘る誓いを立てています。ですから、誓ったことを自分は恙無く行っているという思いには、どこか無理があります。真摯に自分を見つめれば、私たちは、神様の前で自分の足りなさを感じて当然のはずです。これは、修道者に限りません。信者全体に言えることです。

復活祭を前に、洗礼志願者と共に歩むこの時期、自分自身を良く見つめて私たちの信仰生活の初心に立ち返れるよう、神様に恵みを願いましょう。赦しの秘跡に与って、私たちが共同体として新しくなり、「純粋で真実のパンで」(Iコリント5・8) 復活祭を祝うことができますよう、共に祈りましょう。

カトリック笹丘教会 拡大信者会 議事録

日時 : 2018年3月4日(日) 11:30~13:00

信徒会館ホールにて

†初めの祈り・・・主の祈り

議題

1. 2018年の小教区目標について

小教区目標 「神のいつくしみをさらに生き、広めよう」

(具体的取り組みに対する主な意見、提案)

①ミサ聖祭とゆるしの秘跡を通してのいつくしみの体験

- ・身近で教会から遠のいている人に声をかける。
- ・教会学校に来ている子どもたちは、とにかく、ミサに来てほしい。
- ・教会に来るのを楽しみにしてほしい。
- ・ミサに与えることは大事。教会が面白くなくても、まず来ることが大切では？
- ・老人の立場になって、教会に来たくても来れない人を、車を出すなどして助けてほしい。
- ・ホームレスの支援なども大切だが、身近にいる困った人、苦しんでいる人を助けるべきでは？
- ・子どもがうるさくて来れない、という人がいる。泣き部屋が必要では？
- ・子どもの頃の思い出として、泣き部屋にいと、ミサに与る機会を失う。
- ・小さい子どもは、長く静かにできないので、奉納時に入室するようにしては？
- ・笹丘で、子どもたちが前の方の席に座っているのはよいと思う。

②聖書を通しての具体的ないつくしみとの出会い

- ・聖書の勉強会を活性化しては？
- ・日程をわかりやすく、教会ニュースにも載せる。
- ・「聖書の分かち合い」(第2・4金曜日、10:30)が、行われている。

③身体的慈善や精神的慈善を通してのいつくしみのわざ

- ・教区で、「被災者支援及び生活困窮者支援募金」をすることになった。
「一菜募金」から支援をいただいたことがきっかけ。小教区でも取り組んでいきたい。
- ・班を利用し、繋がりの中で、身近なところの困窮している人を探していく。

④葬儀の在り方 本来の意味やかかわり方を検討する。

- ・通夜、葬儀ミサ・告別式に、もっと多くの人に出席してもらいたい。
- ・連絡網を再整備する。班が機能していないので、班単位の交流を活性化する。

2. 2018年度の行事について

10月ごろ巡礼を予定。

3. 今後の予定

3/24 枝の準備 10:00～、その後、役員会

3/25 受難の主日(枝の主日)、黙想会 3/31 卵・パーティの準備 13:00～

4/1 復活の主日(ミサ後、パーティ)

4/15 信者会総会 4/22 初聖体

4. その他

・信者会役員を選出方法や任期について考えてほしい。(規約はないが、一応任期は2年) 総会の時にも検討する。

†終わりの祈り・・・アベ・マリアの祈り

東日本大震災から七年



東日本大震災

2011年(平成23年)3月11日(金曜日)14時46分18秒(日本時間)

地震の規模はマグニチュード9.0で、最大震度は震度7

人的被害 死亡者数 15,893人、行方不明数 2,553人、(2017.3.10現在)

福島県檜葉町のシスターからお礼の手紙が届きました。(要旨を抜粋)

カトリック笹丘教会の皆様へ

聖母訪問会 檜葉修道院

シスター 藤原 てる

天候不順の中で草花がほころび始め春の訪れを感じる頃となりました。

いつも福島傷みを抱えた人々と、小さい存在の私どものためにお祈りをして支えてくださっておりますうえに、この度は、皆様のお心のこもったご寄付を賜り誠にありがとうございました。姉妹一同心より御礼申し上げます。活動費として大切に使用させていただきます。

檜葉は、山、海、川、広大な田畑に恵まれた自然環境の豊かなところです。しかし、復興の名のもとに町の原風景が変えられていくのを目の当たりにしています。

帰町された方の多くは高齢者です。一日も早く安心して暮らせるようになりますように、どうぞ続けてお祈りくださいませ。

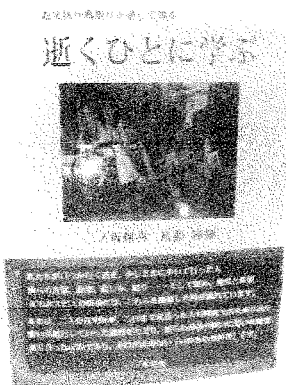
私たちも小さな存在ですが、檜葉住民として仲間に入れていただけることを感謝し、神・人・自然との和解を願って、傷んだいのちに寄り添っていきたくと思います。感謝を込めて皆様のご健康と神様の祝福が豊かに注がれますようにお祈りいたします。

広報委員のおすすめの一冊

在宅医が看取りをとおして語る 「逝く人に学ぶ」

松尾太司祭叙階記念誌『主が呼ばれたから』を発行して数々の反響をいただきました。その一つに、これを機に触発されたと言うことで信仰のルーツの寄稿、また著書を寄贈いただきました。今回はそれをご紹介します。

今年の教区目標『神のいつくしみをさらに生き、広めよう!』



二ノ坂保喜 後藤勝彌著

今年の目標の具体的内容の一つ、葬儀のあり方、終活にもつながる貴重な一冊です。深いテーマでありながら大変読みやすく編集されています。後藤勝彌氏は笹丘教会の所属の信者さんです。

信徒会館の本棚右か2番目の棚、上から2段目に置いております。借りられる方は所定のノートに必要事項をご記入下さいませ。

※後藤氏の著書は他に片淵湛 (カタフチシズカ) の名で『長崎飛翔上・下』があります。

編集後記

今年の福岡教区、笹丘小教区の目標の中にある「葬儀」について考えていた時、「エンディングノート」というドキュメンタリー映画を見つけ早速DVDを購入した。2011年「日本カトリック映画賞」を受賞した、カトリックの若い女性監督が自らの“家族の生と死”という深淵なテーマを軽快なタッチで描いている作品だ。主人公は監督の父親だ。熱血営業マンとして働き続け、67才で退職したサラリーマンが、第二の人生を歩み始めた矢先にガンを宣告され、残された家族と自分の人生を総括するために“エンディングノート”を実行していくドキュメンタリー。病と向き合い、最後の日まで前向きに生きようとする父と家族の姿。

感動の場面はたくさんあるが洗礼のために勉強を始めた父、教会での荘厳な式を夢見ていたが結局入院先のベッドの上で、娘である監督がみずから洗礼を受ける場面。そして、何ととっても最後の最期の夫婦の会話。初めて妻に『愛してるよ』という夫。『私も一緒に行きたい、もっともっと大事にしてあげればよかった』と妻。そして、「みんなにありがとう」の言葉を残して。

さて、私の「エンディングノート」は・・・

(Y. K)